

# 安全データシート

## オキシランカルボアミド

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

### 1. 化学品及び会社情報

#### 製品識別子

製品名 : オキシランカルボアミド  
CB番号 : CB6761747  
CAS : 5694-00-8  
EINECS番号 : 227-163-2

#### 物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : データなし  
推奨されない用途 : なし

#### 会社ID

会社名 : Chemicalbook  
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟  
電話 : 400-158-6606

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

##### 分類実施日(物化危険性及び健康有害性)

GHS改訂4版を使用

H29.3.1、政府向けGHS分類ガイダンス (H25年度改定版 (ver1.1): JIS Z7252:2014準拠) を使用

##### 物理化学的危険性

-

##### 健康に対する有害性

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) 区分1 (神経系、眼、肝臓、生殖器)

発がん性 区分1B

生殖細胞変異原性 区分1B

##### 分類実施日(環境有害性)

政府向けGHS分類ガイダンス (H25年度改定版 (ver1.1): JIS Z7252:2014準拠) を使用

##### 環境に対する有害性

水生環境有害性 (長期間) 分類未実施

水生環境有害性 (急性) 分類未実施

#### 2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS07	GHS08
-------	-------

#### 注意喚起語

危険

#### 危険有害性情報

H350 発がんのおそれ。

H335 呼吸器への刺激のおそれ。

H319 強い眼刺激。

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

H315 皮膚刺激。

H302 飲み込むと有害。

#### 注意書き

#### 安全対策

P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。

#### 応急措置

専門的な使用者に限定。

P337 + P313 眼の刺激が続く場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P333 + P313 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断 / 手当てを受けること。

P308 + P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P304 + P340 + P312 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

### 2.3 他の危険有害性

なし

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式 等)	: C <sub>3</sub> H <sub>5</sub> NO <sub>2</sub>
分子量	: 87.08 g/mol
CAS番号	: 5694-00-8
EC番号	: 227-163-2
化審法官報公示番号	: -
安衛法官報公示番号	: -

## 4. 応急措置

### 4.1 必要な応急手当

#### 一般的アドバイス

医師に相談する。この安全データシートを担当医に見せる。

#### 吸入した場合

吸い込んだ場合、新鮮な空気の場所に移す。呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。医師に相談する。

#### 皮膚に付着した場合

石けんと多量の水で洗い流す。医師に相談する。

#### 眼に入った場合

多量の水で15分以上よく洗浄し、医師の診察を受けること。

#### 飲み込んだ場合

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。口を水ですすぐ。医師に相談する。

### 4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

### 4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

---

## 5. 火災時の措置

### 5.1 消火剤

#### 適切な消火剤

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

### 5.2 特有の危険有害性

窒素酸化物(NOx)

炭素酸化物

### 5.3 消防士へのアドバイス

消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。

### 5.4 詳細情報

データなし

---

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

保護具を使用する。粉じんの発生を避ける。蒸気、ミスト、またはガスの呼吸を避ける。十分な換気を確保する。安全な場所に避難する。

粉じんを吸い込まないように留意。個人保護については項目 8 を参照する。

### 6.2 環境に対する注意事項

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。

### 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。掃いてシャベルですくいとる。廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

### 6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 7.1 安全な取扱いのための予防措置

#### 安全取扱注意事項

皮膚や眼への接触を避けること。粉じんやエアゾルを発生させない。曝露を避ける一使用前に特別指示を受ける。

#### 火災及び爆発の予防

粉じんが発生する場所では、換気を適切に行う。

#### 衛生対策

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。注意事項は項目2.2を参照。

### 7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

#### 保管クラス

保管クラス(ドイツ)(TRGS 510): 6.1D: 不燃性、急性毒性カテゴリー3 / 毒性危険物または慢性効果を引き起こす危険物

#### 保管条件

冷所に保管。容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。保管安定性推奨された保管温度2 - 8 °C不活性ガス下で取り扱い、貯蔵する。

### 7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 8.1 管理濃度

#### コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

### 8.2 曝露防止

#### 適切な技術的管理

十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。休憩前や終業時には手を洗う。

#### 保護具

##### 眼 / 顔面の保護

顔面シールドおよび保護メガネ NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。

##### 皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに)適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

##### 身体の保護

化学防護服, 特定の作業場に存在する危険物質の濃度および量に応じて、保護装置のタイプを選択しなければならない。

#### 呼吸用保護具

リスクアセスメントにより過式呼吸用保護具が適切であると示されている場所では、工学的制御のバックアップとして、N100型 (US) またはP3型 (EN 143) 呼吸用保護具カートリッジ付き全面形呼吸用保護具を使用する。呼吸用保護具が唯一の保護手段である場合、全面形送気マスクを使用する。NIOSH (US) またはCEN (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた呼吸用保護具および部品を使用する。

#### 環境暴露の制御

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。

## 9. 物理的及び化学的性質

### Information on basic physicochemical properties

形状	固体 (20°C、1気圧) (GHS判定)
色	淡橙色 (NTP TR588 (2014))
臭い	データなし
臭いのしきい(閾)値	データなし
pH	データなし
データなし	
データなし	
データなし	
log Kow = -0.63 (推定値) (HSDB (2016))	
水: 4.3X105 mg/L (25°C) (HSDB (2016)) アセトン、ジシクロメタン: 可溶 (NTP TR588 (2014))	
データなし	
データなし	
0.586 mmHg (25°C, 推定値) [換算値 78.1 Pa (25°C,推定値)] (HSDB (2016))	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
データなし	
32~34°C (Sigma Aldrich)	
融点・凝固点	
32~34°C (Sigma Aldrich)	
沸点、初留点及び沸騰範囲	
データなし	
引火点	
データなし	

## 蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

## 燃焼性(固体、気体)

データなし

## 燃焼又は爆発範囲

データなし

## 蒸気圧

0.586 mmHg (25℃, 推定値) [換算値 78.1 Pa (25℃, 推定値)] (HSDB (2016))

## 蒸気密度

データなし

## 比重(相対密度)

データなし

## 溶解度

水: 4.3X105 mg/L (25℃) (HSDB (2016)) アセトン、ジシクロメタン: 可溶 (NTP TR588 (2014))

## n-オクタノール/水分配係数

log Kow = -0.63 (推定値) (HSDB (2016))

## 自然発火温度

データなし

## 分解温度

データなし

## 粘度(粘性率)

データなし

---

## 10. 安定性及び反応性

### 10.1 反応性

データなし

### 10.2 化学的安定性

推奨保管条件下では安定。

### 10.3 危険有害反応可能性

データなし

### 10.4 避けるべき条件

データなし

## 10.5 混触危険物質

強アルカリおよび酸化剤とは配合禁忌。

## 10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

---

# 11. 有害性情報

## 急性毒性

### 経口

GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

### 経皮

GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

### 吸入:ガス

GHS分類: 分類対象外 GHSの定義における固体である。

### 吸入:蒸気

GHS分類: 分類対象外 GHSの定義における固体である。

### 吸入:粉じん及びミスト

GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

## 皮膚腐食性及び皮膚刺激性

GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

## 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

## 呼吸器感作性

GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

## 皮膚感作性

GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

## 生殖細胞変異原性

GHS分類: 区分1B *In vivo*では、マウスの優性致死試験で陽性、マウスの相互転座試験で陽性、マウスの脾臓リンパ球及び肝臓を用いる遺伝子突然変異試験で陽性、マウスの末梢血を用いる小核試験で陽性、ラットの末梢血小核試験で陰性、マウスの精子細胞を用いる不定期DNA合成試験で陽性である (HSDB (Access on June 2016))。 *In vitro*では、細菌の復帰突然変異試験で陽性、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、マウスリンフォーマ試験で陽性、染色体異常試験で陽性、姉妹染色分体交換試験で陽性である (NTP TR588 (2014)、HSDB (Access on June 2016))。以上より、ガイダンスに従い区分1Bとした。

## 発がん性

GHS分類: 区分1B ラット及びマウスを用いた経口経路 (飲水投与) での発がん性試験において、ラットに口腔粘膜又は舌の腫瘍、甲状腺腫瘍、単核細胞白血病、精巣・精巣上体・乳腺・陰核腺の腫瘍が、マウスにハーダー腺、肺、皮膚、前胃及び乳腺の腫瘍が認められ、ラット、マウ

スの雌雄いずれも発がん性の明らかな証拠があると結論された (NTP TR588 (2014))。以上、既存分類はないが、実験動物2種に多臓器発がんが認められたことから、本項は区分1Bとした。なお、本物質はアクリルアミドの代謝物であり、アクリルアミドと同様の部位に腫瘍発生が認められていることから、アクリルアミドの発がん性は本物質への代謝変換により生じるとNTPは結論している (NTP TR588 (2014))。

## 生殖毒性

GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。なお、雄ラットに本物質を14日間腹腔内投与した結果、精巣タンパク含量、精巣上体重量、及び精細管精子の生存率の減少がみられたとの記述がある (HSDB (Access on June 2016))。

## 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

## 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

GHS分類: 区分1 (神経系、眼、肝臓、生殖器) ヒトについては関連する情報はない。実験動物については、ラットを用いた飲水投与による2年間反復投与毒性試験において、区分1の範囲である15.3~61.2 ppm (ガイダンス値換算:0.77~3.06 mg/kg/day) で神経系への影響 (脳のグリオシス、腰髄軸索変性)、肝臓への影響 (肝細胞の変性・壊死)、子宮への影響 (子宮内膜の過形成)、精巣への影響 (精巣上体内剥離精子) がみられ、マウスを用いた飲水投与による2年間反復投与毒性試験において区分1の範囲である15.3~61.2 ppm (ガイダンス値換算:2.3~9.2mg/kg/day) で神経系への影響 (頸髄の軸索変性)、眼への影響 (白内障、角膜の炎症)、肝臓への影響 (肝臓の血管拡張及び壊死)、前胃への影響 (上皮過形成)、脾臓への影響 (脾臓の造血細胞増生)、卵巣への影響 (卵巣嚢胞) がみられ、マウスを用いた飲水投与による3ヵ月間反復投与毒性試験において、区分2相当の306 ppm (ガイダンス値換算:45.9 mg/kg/day) で神経系への影響 (後肢麻痺、末梢神経障害 (主に坐骨神経)、後肢の骨格筋の萎縮、膀胱の拡張)、精巣への影響 (精巣の精細胞の変性) がみられている (NTP TR588 (2014))。前胃への影響については、前胃はヒトにはないことから標的臓器としなかった。また、脾臓への影響は造血細胞の増生であり障害性の所見ではないことから分類根拠としなかったしたがって、区分1 (神経系、眼、肝臓、生殖器) とした。

## 吸引力呼吸器有害性

GHS分類: 分類できない データ不足のため分類できない。

---

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

データなし

### 12.2 残留性・分解性

データなし

### 12.3 生体蓄積性

データなし

### 12.4 土壌中の移動性

データなし

### 12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

### 12.6 内分泌かく乱性

データなし



## 12.7 他の有害影響

非該当

オゾン層への有害性

データなし

---

## 13. 廃棄上の注意

### 13.1 廃棄物処理方法

製品

免許を有する廃棄物処理業者に、余剰物で再使用不可の溶液として処理を依頼する。可燃性溶剤に溶解または混合し、アフターバーナーとスクラバーが備えられた化学焼却炉で焼却する。汚染容器及び包装製品入り容器と同様に処分する。

---

## 14. 輸送上の注意

### 14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制): - IMDG (海上規制): - IATA-DGR (航空規制): -

### 14.2 国連輸送名

IATA-DGR (航空規制): Not dangerous goods

IMDG (海上規制): Not dangerous goods

ADR/RID (陸上規制): 非危険物

### 14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID (陸上規制): - IMDG (海上規制): - IATA-DGR (航空規制): -

### 14.4 容器等級

ADR/RID (陸上規制): - IMDG (海上規制): - IATA-DGR (航空規制): -

### 14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR (航空規制): 非該当

### 14.6 特別の安全対策

### 14.7 混触危険物質

国際輸送に関する国連勧告の定義上は、危険物に該当しない。

詳細情報

強アルカリおよび酸化剤とは配合禁忌。

---

## 15. 適用法令

---

## 16. その他の情報

### 略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

### 参考文献

- 【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>
- 【2】化学物質審査規制法（化審法） <https://www.env.go.jp>
- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>  
<http://www.echemportal.org/echemportal/index?>  
pageID=0&request\_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

#### 免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。